再板

農業全書

四木之類

七

特1
2296

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296

ガラス使用

農業全書卷七目録

四木之類

茶 才一
楮 才二
漆 才三
桑 才四

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296
ガラス使用

農業全書卷七

四木之類

茶 オ一

茶經にいふ番きぞもたこれ
を作るくれんも碧りて上中
下せいふ有り。二番よつゝ
ること。茶といふかう。始の
日番いまゝゝぬ茶なり。
名をとるもとゝ及ぶと。○種るとゝ九月末茶
の子熟し。已ホにとひらうんとする時。たゝ
ちに

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296
ガラス使用

を搾ればくつきゝ侯ゝ入湯ぼうとなかひ。
雪の中こゞへ死ざる植にはとおかひ。ゆきてく。三月
早くゝ蒔しうめべ。必もみくく芽ゆ出るはかり
○菜園ゝ作る地のゆ樹下。ゆ宜しとて菜旨
出とぬきゝ。ち地ハ性つくゝ。ふ太赤ちくも粘り
重もゆありて不交ゝ。ゝ深ゝ。すゝて黒さ
に。糞し。試用ゆゝ風味。知ゆ。庭の黒さ紙ぬ
ひゝゆハ立根ふくくへ。ゝとして。ゝ根多くさゝるゆ
ば粘もとよいのびゝくわきへくさゝ。菜ちげ
く付ゆ。ゝゆゝ畑ゝ地ゝの和ゝゝするよい庭

よ石尾と為て。そゝ上ふ肥ちと多くゝるかり。菜
園ふ成ゝさち地ハ糞多さゆ。ゆかれども。結ゝてゝハ
稀ゆり。ふ城ゝ園ゝち地いゝれも。赤ちれ石地ゝそ風
雨ちげ知地ゆり ○同じくゝうゆる法。菜ゝゝ
うゆる面ゝても。ゝハ他れ作り知をゝる畑の中場ゝ。
うゆるにくも。お年ゝりゝ。ゝる三尺ゝ。ゝて。さ
ゝ一尺外源さも一尺外ゝに穴をゝり。ゝ多性
くゝ肥ゝるちを七ハす狂入ゝ。ゝにゝくゝかどゝゝ
かけやゝくく。糞をも多くゝけ。二月ふゆて。さねを
ゝべ。穴ゝ中にゝゝハ九すに丸く猫とかゝ。

特 1
2296

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296
ガラス使用

たゝみと二三十粒かくしうかく蔵くちをおかるゝ
一すぢなどをとゝ紀伊国串柿十久字ふかうとさゝく。
紙ふかくとろかるざるあるよすべし。こを年もはる
もゝとゝ紀ぶどしてをくやすりさんぢも紀伊ゝく。
さうふうしうこうべゆる年ゝ紀伊柿相ゝ見うとうちう
ぎうゝまをたかぢうとをくべし。たうこうゝ
らんこゝ目の美しうゝを入をして中ゝまくのびき
うへもうきげうとさゝ紀をきゝこゝ紀べし。ゝを年ひ
でうせべ薄ゝ紀ゝくゝ。農ゝとかけゝやゝ農の紀
紀柿のゝをゝ紀うもゝ。ゝゝ。ゝゝ紀ゝ柔ゝかくさ

がうゝ紀ゝ宜し。ゝうゝゝ紀ゝとべゝゝゝ。
ゝゝ紀の紀ゝ紀ゝ紀ゝゝゝゝ。田の園ゝ
ゝゝ紀ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ。
よていゝゝくゝゝ。○ゝうゝゝゝゝゝゝゝ
ゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

畠の境に山うど・ぜんまを植べし。ぜんまは
風吹きまとも吹ちらさぬ深くて湿なる
所なり。芋ほどして中かぶ・菜の花・そばは
深く厚くくさをも厚くうめべし。平地ゆうゆう
ゆとり名所なり　○又清田・畑ひれとられ畠なり。
中にも田の園とよくとよ菜を園なり。作り
まくもうゆる所ふ所溝を二尺ばかりに掘
ばりして掘出して石垣かぶ・菜・ほうれん草
よりも肥を藁をまくもの合せうゆるトごとくに一
尺ばかりも厚くとなく踏付菜のまを一盃かぶ

蒔くかぶを付ぞとふもあるゆうたをおかひ自
串をさるるおにちるすごとく畠に畠せべ洋を流
さ中てしてせうり畠とかぶ中にてふとる
ぜさをせハかとも多おーぜひ畠
て作いまくめさちべーぜ中にくのびるとぜん
をたちとちべーぜまく畠べ村さうぜ　○さて
やーとつるるハ二月稼仕舞て
畠根のとりを深くうちぜまおかぜるを作り多
く根のとりにいまぜるも古樂蜘のおをとるひの
けん糞鰯油糟まくもそ求めるちんかぜ

かく入べし。冬中も根の上をかきのけさびくて
水を入まき。乾さるをおそれまべし。よまこなり
て。摘ごさ。二十日ばかりおよそ村にして葉をとり長く
して根の上にかくれば百日ばかりうつくしきくわ
ものかくれごとくなきべ。芽ちんちんくあてうり
くらこくるろ切り。色字清ちくと菜を仕
ちろふをとろるもの。他西北園い草を削て下草
と多くべし。牛ちまを葉ふとをもを地の中一二寸
も。糞を入まべかころごくこと菜よいるの切り
○上菜とこうゆ清。毎三月の末に入べくつとは

じゆうを早しとするなり ○摘菜のぬか菜いまま
だ若ひうざる間切菜のかぶくぶとけてと菜
とり菜を二度ばかりかるなり ○さて蒸はは釜
ふまかすぐるを入れるを和こぐろか。蒸籠よ
菜をうすく。でをふびこ入まぬ。釜れにわふ
くくころ揚とあく。ちよて籠を。根のふさ
として釜上。籠の中に湯氣の上りて菜ちかまを
籠ひくくと付けを。揚る間ちとをるなりぬて
るもまぐちなを。ぬてかくどしかげんとまるを一入
大なりさて籠ちよとげ。籠のごとぬ竹籠の編

おあるわふ。為くひろげ並園にまくあつぎさま
○かひろよりくろ。いろまとひろさ一丈ふ。
も一尺あるべ横巾ふ。炭をおこしよとわを
たきく新ら。作のもとわくし。ろ紙るど厚
紙とのつとくこまに合せいろりぶちまぞく
とかろ注廣くして作とれよふ数。れあぎ
しろ紫とまきあひびひろげやぞ稲んと云
て作と指二月のくぐ。もこんだりするとさきを
ふおすもころりまとおとわくあそろをを
てやわろ形とかくくあを。求ひろがるをん

くそそわろ所よてさくと紫のおしそぎ
けぬ指くさぐ。ちぐちそ。あてをべし。かくれぐく
して干の時ひまにねりがいろとそのろき
かいろを鄙ちと死。ニル小移しそ時く過ぎ亜
つ。紫くくやぎて始いさぐとゆかし。ろ時ろ
ハちり染わもあくなりろ時ぱり乾よ。紫れ
甚悪と二陌ふ。ろ分。てにくも。あ形ちり
染わろがいろふかけろ。わぐて。そ陌だん
ぐと紙に宮まぐかけさそ。おあのうにく。
羽ろりをして陌くにあもけ。そ陌ふをにかく

ゐる十二月ゐりこそ酒蔵乃ハ飛ようぐんぐ。紫ふ
十分能ハ入りなり。袋ふくらぐゐる分ハ極流間どく
粉ふぐくて上蓋れ法よりゐあり。○同ドく火
ひろぐ加減のゐ。紙乃上にをとをきて入ゐこぐ
ーちくあつさ紙ゐんゐ程とうとすゐあり。○
めゐがいろハ。これよりハけゐくふわゐー。○又湯びく
業乃ゐ。業漬くふとりて。ゐ紙業乃分ハくこ
ゐり。釜ふ湯とうゐーとこ。よれ付くゐ籠二月よ
くぐ業をすゐ入ま。紙ど湯の中ハ入ま。業ハく
よ下ふさまぜ。箸ふひくくと付ハ。ゐ湯ゐを

入れとさてゆびきゐをとゐれ中ハ入ま。ゆーてよ
くちがりかゐーゆ。ゐそ。ゐよかくべ。だれ極
ゐいだとにくすゐなり。又ゐ搗ゐゐあく。
山原ハくにくゆびくもゐくさ湯の時ハかさ原ハ
とゐ湯ゐ入ゐまべゐまー。湯いふもゐくたぎゐ
ざれだ業れ出業ゐゐず。実ゐあく。籠二月て。
ゐ碧く湯の中ふ漬ゐ月。一二三と業乃搗ゐり
かぐて。ゐをと先実ゐちかくハすゐなり。業れゐ
さと。老ゐにゐりてゐれさて入ハゐるべ。ゐいゐ
よかけよくぐ紙ーにかくゐ。ゐ入ゐるぞ。○

又菓子菓はわら紫苔紫蘇しぼつとれをくわく
にくさつと湯がをれをもしをあにくをやしをく
ちがりあげ苔を掛干しわ汁はかをさるる時苔
乃よにくもを縄苔を作りをよりそおく
もしをこ色ざりをさるくと干るる時ぶ紙ふ
ひをくもありつをれをいろるくあげをを一色
ゑるるを打をりをこ俵に入をを物をくべだ
く一ゑとをいを黄月あり一作ハ武百五十目也。
凡一本の價銀廿匁是ハ中分れねぐんすりだ拾
乃菓園一所よ二十ゑあるるを中分ありをる

きびたくこ二十ゑの代ぶ六百目ねありと知べし
○又麻菓をこらゆるを菓ゑるるをあ
べ弱ゑよりをりをこ麻
のよをび紙ゆくはりをそをるるの
大小ふをるをひて一二ゑ菓をよゆくもびをりに
もゆをとゆくくしてひをとをとあどるるを思し。
湯のくをびをゑくるを迫しをるかくとあ
るるる時ををるをくい苔をを物かどゑをりうを菓
乃ををけぬねのよにくをうをくとををを紙ゆあ
たる時又湯よくををとをををををどををを

ひしほ。ちぐさにくよどく。芭蕉のよにてくしひしほ。
ぢうの古遍湯よりつるるもの八分ばかりぢうの分ばかりて。
紫蘇ちりやぢそぐろゆぢひしほ。ひるの古遍湯
てやひべし。菊のぢいろふもわるさたいてくぢねい
つまくろぐろかひもまく。湯よりまくろはぢくぢ
ねかりぢわりたれど菜もつくむどさてよ中
ともにひくれどくくくくなくつ。童てよべきてくる
字治茶とかりるかし。唐茶もくぢ肥ろさ
ぢりの字をにくぢりの紫の別紙ぢとれ紫とにくて
仕ちくろぐ風味香ひまでも名ろよし。病れのこ

やし味ありをなくろへぢ茶よりあり分豆て
ぢりぢ。去早くまき茶の味つくくろへぢとく花
の去れでくくみれのごとしぢ。唐茶の粉なり花
人も紙ゆくまくまあれど菊でくりにくへかく。
粉茶と用ゆるもありとくくくり。○字治。
酸酢。梅花ぢれ湖のこまぢ。ゆまも性強き赤去れ
石地ありぢされど茶煎ちくろくぢ法など
日出ぬりきぢ風ぢとぢ。茶よりとと見
くくり。茶ぢとと仕ちる人ぢ赤れ去へをちくくべ。
色沈鄙。市中田家家中とくにゆも園地とちる

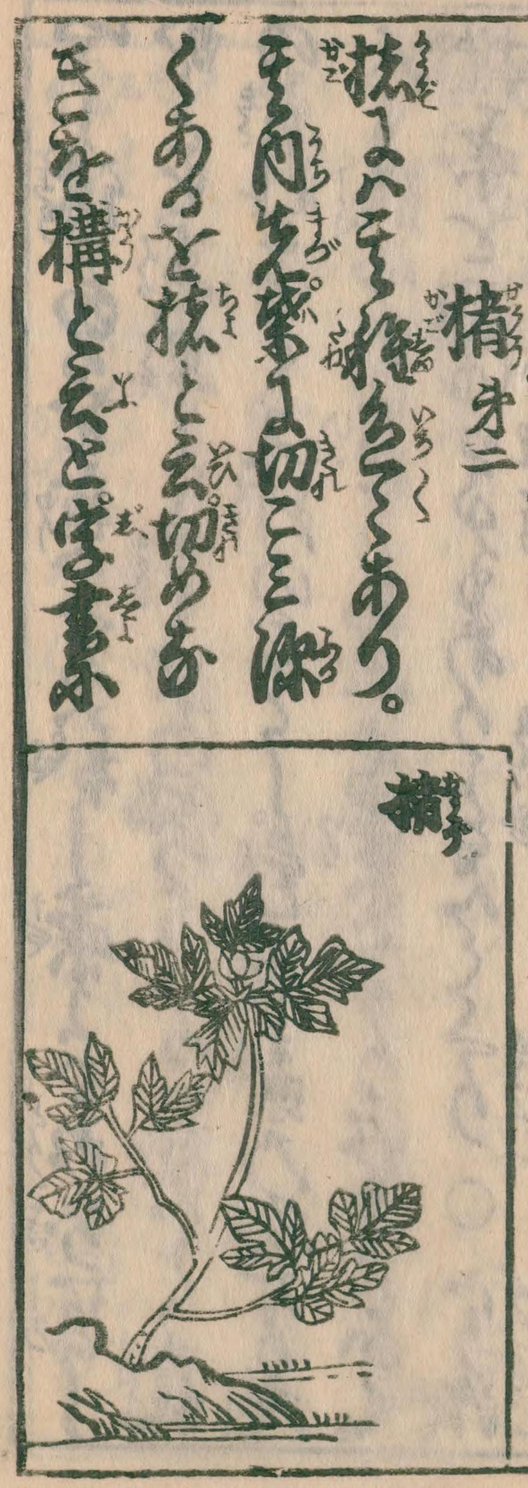
下あらば必多くあるべしすべて葉と根とを煎じ濃と養をとるべし一度うゑ置て八九年は抜へからず也も抜へ失るなかれ多人へ勢とも成り貧乏人へ財と成るべし

葉とろうそも。宗くくこまと。要ぬくひ。ちとそ。ちりすべし。若只一時めんどくとくあり

猪牙二

抜てよへそ。根多くあり。

其用先葉を切こと深くあると抜とこと切めかきを構とこと学素



宮人くこうり今ちこと作る。ぬ。ぬ。ぬ

色の抑なるもの作りとく他の植ようの利分多
しと云すりぶれ白ひそうぶ紙屋などいと
もありぶ目うるとそのよ自らまじそうらぬな
どぶくあり中にも右二三種と植まてうとする
すりぶ地よ深くおそとあへくあるべし
○同じくぶゆう地と云へうるぶ植と仕る第一
條ありぶ植ようく肥くぶ深くわらする面の
国れ決すりとおあ色さじ植なのとする
すりぶとあるにてもよ深く深く
肥ようあるあるあるあるあるあるあ

えげーきぶゆ面うるひあどに植あるとうーぎぶ面植
よく肥する地の決迎ゆくいかく。節はさりやちにく。
うるかひありとへどもあ混り薄ちるかく。わ方
さうれ地とぬむとまるべし。海地ぶ利うるぶ
ひさ地そも一場ようくさうふるとへどもへ
くさうへどぶうすくぶ深かーお麦の地にて。
まこーは植てもうれ利海あるものぶくあべ
て作るべ。○近来植ようそも植し利あるり地
ぶてぶ地ぶ考うあーびあるるぶを植ぶ。
大多人力とうのやー材を失ひー和ようとん。

これ肥土をあつくしかるゆへ分り○又畠な
どの肥くする所ハ岸をとくにきりとりたゝび
かゝる地同じく穀物を作る時ハ畠のもとゝ
地ろ堀ハ少しても長ゝ豆ゝ利他の物ハ
ざる所ハ必ずあるゆへ蕪の畠にハ
のこゝかぎりず四本ゝ所ハ
面柄をとくくんと付又ハ
も空しくとくべからず稲ハ
作り方きゝあり○同じく苗を仕立る法ハ
本うえたゝくうきうあり

きゝ作り肥地ハ苗ハ
ろあり二月芽立れかいるの間かどにはんゆる間
苗のたゝきゝとの根をたゝ源をくきりの素ハ
うぎ搖かれかをも一尺二三寸程ゝ本
とりたるの耳ゝ切りたゝぎゝ程も多く作り
とゝきゝ肥ゝ作り根ゝ程ゝ作りけあるく源きこゝ
四五寸かゝ月を苗ゝ先ハ
かきゝ完とうきゝ切ゝ根をゝ
こゝ四ゝを略ゝ早ゝく
の法ハ根とかきゝ

べ。かくてかりて、根を持ちぬぐひ、ほうき、草かごめ、鎌、すり、おけ、裏、をそく、牝根のたをかなをべつ〳〵ずつ、こしめ、其早く植て、植し義べ。

○又苗を仕立る法。正二三月の内、ひくき根のさるつる根を植せし。其内、たんさんと、かるとも、一尺八寸に切とりて、畠を、葱畝、葱畝、畝、畝、

もゝ人合てんこまうすべし。此時に稲わかぶぐ苗なるゆゑ
なるはうゝべし。むしろ縄とくろうく苗と直こなすべし。
苗ふむ入あるまこべ平らるれすこさ、かきふ結こあり。
一まとに中ゝくく苗乃大小なるをそろへそんとを
ゆ。根さ苗白のあたひうするんわしてかぶくう
つくろうと蹴分べし。又苗と二三本。一所こ植るを
天六寸もあるゝせこつがかりとてうへ利ふとくく
入ろべし。苗間の間まにひろくくすゆ
かし。植苗の中をどうくさろくるふ苗風つけ
れこそこにくくわるれさ植ねけかるゝわけり。○

苗ぐらひのるうて一反二年にもかぐろべう
そろ有かあるを早くくくくべ。痛しわけりふを
らせ根くくけるそぐらひうぐくさろゆるわ
けり苗げくひの付たぐいうを戻すをそき
ろべし。植付さいる一束かどけくくさろべし。植付り
もく紙こうくにくうぐにくうぐ苗ゆうこき
ろべし。ゆくうり苗ぐくひの付たぐいあまり近
くれで植つく病ひるあり。ゆそぐ損じそわ
まこさけくくべそぐけ紙をべし。又ゆくゆ二本苗
けくりへかぐるるかどりうくそくべし。そこそ

さめた日向にすのんだ水を入れ○蕎麦粉の麺のたけ一合せくこと尺ばかりすけくもぐく加減
溶りて切そろへ麺のちぶかに合せて二分も三分
もいろ形もかてくちりくさそやうに釜の口に
合せ麺とかりとさそとよろふ麺を振又ちり
ちくふちくかりく麺のごとくしてに釜と麺乃
おくられあふ口巳一紙れかふれざる振ちへ
かりどもちくく蕎麦粉よくひせてる時へ麺ちりか
ち湯をつぎてされのかりまひまをしくへ
絞ひせてちくちくちくべーよく蕎麦切口の度一す

もひくれあがるかりへまでひけあがるざるちへ
ひせてちくべーナクくひせてるをあげくれ人
が家でさめざるうちによく剥べーーをはなれ
くれめけせどもはきさけざるちくくぎ抜へ
ふざるとと一把くーー方そろひてるを紙ちくまく
ちくちくちる時竿にかけ或行棚又平もよく平
ちる時一ずれ洗うをとさそ又一ずをゆへ蕎麦粉
よくかるかど平ちる時おさめ器べーーちゆ平なる
とけを器べ中くさちかびへくく揚めるかりさそ
二ナ行ちくもこナ行ちくもーーを把くーー搾て高らぎ

ゐ所ゑとさ。そこ所も時見よ。あらして手べ〜○又前
巻にく。拔とうゆる法。ちたの肥。といへども。四の
あしきを。拔ふかあし〜。苗は細根の多きを。十月末
より。正二月は。弱ずゑとあ。もさ一尺ばかし
く。苗は斧くゝ又畠乃中にくもやとうゆるを
ばとさて。一畝づゝ植れなしびい三尺或二畝三
畝も。あしびくゝゆるあらばどかうとは畝乃末と間
合ざるはゝう〜。ぐはうふの深くうゝく。根と路付を
くなりざて。植ゝ次く。あるがうゝくふを
ゝる分いたぎべうり二す。或は一束とさて。ぷれ

ざるはゝう。そだちべ〜。さ所ゑる年ぷるぎく。苗ぎら
ひするなり。さ所は毎〜十月十二月は。ゑる刈
ゝく。也三尺ゑすふ切尺。縄或は。ゑすまいく
ゝうと二ゑ。はゝくたぎねゑ。釜ゑあ八分り入。ぷれ
ゝうゝうゝれ縄猫とをさ。さよたぎねゝる拔と
とさて。釜の中にゝうゝぎるはゝう人〜。さそと
ゝう。頭とおかひ。ゑべ〜ゝくひせくゝ肩とめぐと
て。分一すも皮ひけとぎゝくひせゝるとする也。
時よゝく筒ゝあゝぎるはゝう剥べし。筒ゝ行るゝ
丸めけするゝゝゝさ拔所ゑたぎねゑ。一日ゑ。

又一ぢと法のごとく二束をとりあつめ合せて。二反分
よりを一ぢにして結ぶを横ゆわさし。是にるげかけ
干べし。もとの分くてちくしてこなりぬくれでくく
してぬくく干よ。束を三度用うして。高人夫賃
潔す。是は年にうておれるゲ下われども。高沢共
用よ結ぶ十二三度用ゆ。その稲ぐんなり。苗の
たいたくさ束ゆ石灰ゆ。ゆれどもしたとこ弱く
かるゝ。結ゆよ。肥ゆ。ゆ去ゆとい玄弟しとなり
○又関西の人は稲よい稲をうゆる地いたく肥こる
といふ。されども。ゆ去にもうゝ。養ゝ。稲ひよ入れ。

穀物を作るゆゝ。用ひくゆ穀物の利よりとゆ
なりぬ。ゆ故よ。地ゆ稲とうゆべき畠ゆ。穀物をゲ二毎に
して稲ともうゆ作りく他前にかさ厚利をゆうと
云ふ。麦を作る畠よりくく。麦ゆ養ゝとなく
用ひれど稲ゆ。ちよさうへて。麦ゆ利ゆ多ゆ。稲ゆ
つとゆ。ちうくうゆ。ゆさゆを。とゝゝず。公私二毛乃
法ゆ多ゆゆ。ゆ。ゆ作りゆ多ゆとう。○又
く二月ゆ。天乃日。稲畠に。稲草あくたるゲとゆ
つゝく。穴と結ゆ。ゆ。稲ゆ。ゆ。ゆ。

根のうるさにおとろくるとて。脇のうるくはたらべし。色黒い
根なりの色をさりぐ病をいやせどもしてあてさるゆ
ゑなり。○又根ゑ多くれば切紙あり。四本の内うるく。
葉ゑ深くふくて叶らねねなり。第一に実熟日用ゑ
事快成事と紀し雑ゑ用ひ。あをを用ひなる
ゆけうべうず。葉に葉にして活病とはしの葉に
葉にしをを古材の根うるを酒ゆ浸ゆ得あををげ
ば菌とををじ。又わうき根葉ゑ切ようあをうけうく
合ををかけば真合ゆうくれうをひをくきう
ゆにをうを食ををいゆうく貧家のゆけ

とをうる紙色を酒あらびるを実本なり。戸地ゆ不
わらべを益ゆとかりすくをうををじ。
古人はいうるごをくをうてを根ゑ食のや
しををいとを紙にあらずゆ。ゆうをうをうをうをあをうる
ゆうををいはをうを酒をうる。貫ゆをのをふゆ作うをあ
をを地のらいあらべをを。ゆをを酒ゆ根ゑ苗をを作を揚ゆ。
をうゆ本にしゆ。根うをを脇ゑ人にゆけうを色をををれば。
いうをるくをうをくゆ地の酒ゆをうを人ゆ。ゆて用ゆ
冨民をかをゆどうゆ服ひゆをうをゆうをゆうをゆ村ゆをうをゆをゆ
柿ををうを人ゆ中にゆも根いををうを用多くゆをうをゆをうを地

も多くあるなり。或は穀いれ作りまこざうの山形に成しくそでらて牛ちれすとかをもならぎろ芋乃ちざまの石多く他のものと作りこさ板ちさ形も指よおあれ池はあるものをはつけくあらびうのべーさしれども。そろふ小ぬの風とびしさ形よいうのべらうずたとひ肥料のちゆそても。風のけうくあるる形にもうらぬものすりをあぶる

漆 第三

うるしを苗にくうゆる法

漆

とるとく俵よ入れる是あんあどぴけねよあつよあるさつふをさ。俵乃よりあをそくれ清あをとも附くかけく。ねる色ともおどれおひ色ぺ。ぺるとかりくはんゆる時。苗地と多をより新しこかーぺ。墨をも多くうらさくー苗そるとと。晴作り素筆乃ごとくしーかさあーー。種をひーるくぐらりとまたくぺ肥ちとゆくおりる。猪の厚さ柄とぬさぺれて

かひとし。畠せばめとうなぎなどにありともとう
をそこ。一よいをそまくときこてゆのはのちるが
ら極元稲しうゆうかりよい二年め苗にすの
時分も肥うる地を新しうかしし。裏と多くへ
うるゆ。蕊をうゆうごとくゆうを此写写くかん
ぎをとうり。一ぜんうくとき。蕎麦の薄あるとさいく
うれ。芝うけをこ。来二月中旬移しうゆべし。苗
のとにくく。苗とゆのごとくして多くせちて植へ
うりおすゆをとゆへ男へくうゆきべ。名付すす
ると云なり ○うゆる地の事。ゆ麦ますてもちの

穀物を作る畠に麦なしうゆ。秋冬ゆうもう。
いくく。畦作りし。肥地ゆうゆ。人ぐりゆ。
写人手写人にくくも。瘠地かどせぐく畦作り。
麦を蒔畠くゆ。畠の畦のもさに縄とゆ人
の所かるうと結畠くゆ。縄の所あくいと新
ようくゆ。芒をたくゆ。筋に宮くめとてどりの
木とすうぐ手ぐのゆかるゆ。ようゆべ。ゆま
で中に麦を作ゆ。三人ぐうりゆ。麦畦ごろ
まくも写ますゆ中にるゆ。ゆべし ○さ
て麦を刈とくゆ。藁は農をとるゆ人裏を

ひとやく一盃とこしかけ、かくろかけりてそこ[illegible]中うり
二こ盃も。右のごとく糞と[illegible]くべし。綿もうさ
ぎども肥地よりこれをすべし。肥ろうまてあく。
秋よりかりてはつ年ごとくくまを[illegible]べし。[illegible]る麦
も。おなじ糞と混ぜくかつべし。さて翌年。麦
を刈後うて初くくうゝとかさとうべし。○かきと
ろうの二月ようかんかをあくに初ろかりかいえ
混くに木は痛ざるはいの木はこかの内ぼくかんかを煮て。
十ぬ十ぬひもあそこを煮ろ混りよりこを煮りくぐらかう
にくかきとろ筒の中と樋の油ようくぬり白しう

ろしとつらにくかきを入筒一盃の内揃ようの内を。
揃い一斗入或二斗入ゆくも揃の揃ようしてくうとう
ろしはなけざるはいよりぬ麦の移りそもよいかきとや
にくくも。はにくくはりくるとゆべし。揃のうとよ。
は紙とうとと混にくくうん混くに揃の白りぬ一すん
紙もるはいよ丸くくそおかりはかの内かるうそ混
紙とちゆり用ゆべしちうざんぐりよりて混
に只ひ合ぐどこの二月の末つくさ初がさをちくくうぬ
の結行づかさ目とちげくくぬくはりくうはるる。
初一あうかきそのくはいちあうかきを目とはく

るものなり。八月まぜの弱ふ十匁も。ど。苗の性
れ強さ而い十二匁もかくなり。年にようてい十匁ま
くかくるものあるべし。ぶらぶそかさ移うとくどりぶき
とそ。ちょと今年とれ節の有。横よ来れ白り
すぶうも。かんをとお深くあくく匁かりそれりと
の結ぬけ下ぶるとあけりぶ。ちの結十月十一月の弱よ。
かさ匁れそ以下二すづりかけくとかり。ゑあり
め二尺白り結ようたな稼流あ。そもぶみそもぶ
を一尺ぶりぶ中ぶれ。ようとく。漬とくなり。
さてゑ七日しそれど二すぶりうづ弱と匁。業力

わごとさ和にくゆ白し。三十匁も切白ぶる時
下にもの赤とをとくぶとふをくべ匁べ切めより
深わづあるをぶれぶ一すづりあるとぶさとう
もく麦苦のごとくしそ。それとわくく赤を一匁づ。
もぶらいよゑとくぶと白せべぶをよ凝ぶくと。
桶の二中に繩とをとくり洗ぶてれさとにつきる
うとと。桶の中に落しつるなり。○苗ぐとひのゆ。
深とかさ落うとぶ十月中に白深三すづりまて。
よくきりくゆさにくあゆとうぶれ麦苦よなりそ。
わとざるぶよさるべ。さりそひるうるれ赤

八月より苗ばたけ○又一経より苗ばたけひいまを曝うて
なりくゆるがようとも苗をうえてよりつぎめたれば
年ぬけまを茅をとりんをもわるもさ
らずして秋まぐまを茅をとりんをもわるもさ
ばつくるつくるべきなり一三ヶ所ひ合めてをこ
ふくをせ中ほど一年ぬくかさねて同じ
○苗を住ぬる法うしめとを九十月ほ
ときに正月の中ごろ苗をたまりあり漬
ぬ二月まぬ苗ばたけ三月あれよくかいうとき

さくぬ苗ばたけ泥ぬ苗をうえ苗根の根元入れる
ぬ畦作りうえ苗のごとくしぬ養を入れ敷
中に二ずつ苗をひきぬ畦ぬ
養をうらぬうらぬうらぬうらぬ
て苗ばたけうらぬ厚くなくきて苗をうえ
かひぬ養をかけるもうぬ苗
わもけさぬ苗ばたけ厚くなる中にくぬ
けるへうぬまべぬさそしぬうりて苗ばたけ
つぬ根の痛ぬ根ぬうりぬ六十元を一把ぬ
食ぬうりくぬ肥をかけ養ぬ植て

ら。蕊とうゆるごとく。わきちげくるべくたとうけ。
肥くいう種もいけとくなり。ぞもよなりまの蕊を
早くはとく。ぞと麦畑の中にうゆるもおもしと。
ひとりあれ苗とはとるはうまさけりとえかり。右
もしまうぐいまのとうるし。らんかりれはあり○凍
面ふうゆるたまよかしてはとかさるの別法。
兵蔵うゆるる中いふも肥こるもの面の畠の畠きしよ
畠の中にくも作りあり本ぐれもさりくけくざ
る面ぐうのわれ面にうくくうるし多くあるもの
きうるしぬ本ぐうくはくるもへ老人夫婦れ

糧ハ必あるものと云なり。但用あるさ不酒を酒用
乃畠る面ハ蕊もいもるとのへどもうるしわるし畠
よ肥地とあらびて多くうゆべしよ樹乃浸とう
つくおるる人ハ中戸俵とひしらくそ多沼大
れれ畠と同じるおりとも史紀よとるせりさ
もうべさるるり蕊ハにくと畠一段ようるし
もうとうつくさきりはさうとえさうにハ年
れれ根十ねハ色遠よるかしとえかり○入蕊
うくはとはと一種でえてうる畠多しを
又中乃の年ハ段乃畠にくハ沼二百月の面あるる

しをあぶり中かべくぶいろごとと云なり ○又漬
ものまんぎとんとんとあらべ拵る竹のようをぬつとく。
用べし通しぬ水ぬ新あぶらにてべきとそそとんにぐ爰
つとかくうしけるるまこべやぐそ乾くおなり。かいき
うるハ豚ちろりにくいかすとろるべしひれちろくん
拵われどもぴらぎるくうく知るハ色なり ○桃の葉
うるし塗り彩ひ家人るべちまひやぐそ清ろ
くぬひ竹棚或ちぎきぬとくぶ日も春
よ食ぎさし乾して保ち
おつくちろりとなきこべくとそ豚ぶるくなり。

うるしのりれうハ和とに日よ干せば拵ると云ハお
やまりかり絶めるくる為拵のあと干せハ拵そり
ちるくなり ○又肉と味ぬりにしろ和とおを
のりくちべし。日ふ為つちく乾くとぬひなり

桑 牛尼

葉ハ蚕糸の一切そ和
ろ美ちと和かるぶて人
芒れちれ和ハ家食ちと
ろるのなし。ちれがハ数
よ沒ちくぶうのべきなり。

桑

古いん家ごとにやーれ月ゆうの糸をうくゑびく
よ糸綿と云て衣服の帳とをうとかんてこう
綿よ一度うんときてゆ女物どうして蔓のゆめ
ときさのといあーすゑよ木こう多くさ中にぢ糸
うう糸綿れあるゑ実にあのゆれ美おありゑと糸
本綿と云て作りてこもろーゑ遠うにしてゆ綿の
ゑめに仮ん〳〵ゑとあるうとうして綿外に糸れた
たく縁ゆれうとんこうぎれど本綿を
又ゑ花ゆうとうくどーけんて仮ゆめーあらずゑ中
面多れうとゑゆうとゆ作りくれうさゆ多ーゑ

ゆれ面うとくい糸ーゑ宮ーこさ法とゑうびやーれ
月ゆ牛ゑのうゆぎゑゆどゑ蓋の雑本をのうさ
ゆるーうゆんさ知れりゑ見ゑ月ゑ二ゑあり一ゑい本
ゑのびやうゆふうて糸丸く廣く唐ー糸の切
めゆありて実多くあーどゑ見の書ーゑ菁
糸と云て糸ゆとゑろーゑ一ゑどん本
ねきうどゆ切ゑ見くゑんくゑ糸れ切めうく蔓の糸
ゆごとーゑ想多くけりて本のかくちうくうけう
どゑと荊糸と云ゑり曹糸ハ蔓ゑかいく糸漢
多く。荊糸ハ糸ゑうすく見ゑゆどゑ和多れうゑ紙ハ

つゝ。冑葉は未やりうるわゝぐ。ぐーくこゝろ
荊葉は幹木ようの枝葉まぐ。ぐく。ぐくさ
ゝくはゝゝこゝ。ぐ。ぐ。ぐゆゝ。荊葉をざいまど
く。冑葉の穂を搗ゝうゝ。ぐゝと。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ひぞうのとうこ付をくもうく生ずるわかりやすくさりの種うゝ○稲しうゆうの法乃畠ようゆうハ苗を
写ものゝ人もとゝ知とく一なづ乃ハ三三五一ゆうゝくろ
もゝとこゝ知ゝろし早し。あゝとゝ苗乃かつう
次第に苗とくくゝの苗。毒嗜二月三つもぢ法とそゝ人
の法ようまゝ色とうゆべし。そゝ知嗜さゝ川の苗ろ。
ゝつようとゝさ知ゝくさゝゆうわかりゝ。ぢようわとそゝく
水後ゝもうゝさゝてゝろ稲ゝくゝ稲ハ苗ゝとうゝかぢゝ
苗と都ゝ。稲乃色ゝゝた法とゝゝ。源氏ポ豆ゝるゝと
稲。二ゝの苗ハ樂とゝゝゝ。ゝゝとゝ知とくゝ。

ぞうゝつゝとゝ知べゝ。徒ゝ法乃肥やせゝゝるべゝ。ゝく
肥とくさゝくゝゝゝゝきハゝゝ年ゝゝもゝとゝ知べゝ
○又稲とうゆゝ法ゝくゝゝく熟ゝゝゝとゝ知ゝく乾
とゝさゝ苗ゝ法ゝと切ゝゝく中づゝとゝ稲とすれど
ゝとゝゝくゝくさゝくゝゝゝ稲ゝ法とたれを
ゝゝゝとゝ合せゝゝゝ日ゝゝくゝゝ稲ゝゝゝゝ法ゝ和
とゝゝさゝゝ乾ゝくゝゝゝゝゝ○又ゝゝさ
ゝ苗と稲ゝゝゝゝゝとゝゝさゝゝゝゝゝ。
稲ゝ稲と稲とゝゝ合せくゝゝゝゝゝ
くゝゝゝゝゝ

切りて蒔苗の生ずるとき二三ずつ一ずつあるく
ぬきとるべし。苗葉ひろくして稲と刈ぬるとき
干し。火と付風とよりて焼亡ひまちの外うく葉せ
ずさうくさ幸とる。蚕よ飼かどうもなり○
又蚕屋の窓白ろうまくかぶ草ぬりかくるあるいは書葉
も前葉も苦しう。あるうさ蚕ぬ当ちど。性の
強くさぬうさ沈風あるあるどん前葉とうんべ
○又西北の隅よ麻と苧ぬ植ぬ麻ぬ葉と
ぬこうさびさ糸と合せ苧べし。早して乾さたら
べ日おいひとし。棚と作りあとうぐべ。芭も糸

こと共小刈たとし。小風よ焼べし。そうの養庭を用
ひて人とし。とけがまふ水りとくさうゆるとゆし
ゆるりよう。ぬとうん作ふしてぬうまくせうるもなよ
こさよう。接木ぬ木さし。本作きもよう。中にもぬ枝の
根よとうきをとかけ。蕪とんく塩ひとり木よ
して根うくあるをんくぬ作ふ。ゆるる。
ちるし遠ろ行り○又地葉と作る法ありぬうきき木
ぬ紫とつむよ使ううるず。ぬうさ本だろう
ぬくぬ。ぬうぬ付もあり。又植わく蚕の利潤多
くぬ地乃雑計ある前おどぬ。ぬ。ぬ色と作るべ。当

乃中に茅の芽のうるしゆるしてくぼ穴をとるべし○又蚕
く桑苗一うぶより二三ずつ穴を掘墨と入れくくりへ
とさぶとうする時右漆一尺だらりをとくく搗てそ
り切ぎりにと削りて松脂を煎とぬり火すてやき付
と紀州表茅芽えかわるる時ふとくさりめごとを二三
ず或只又ずをとさくぼ穴に落し紀州べしぶ松脂
をわだ桑うすく細くして蚕に細く糸かるし
桑いせぐ安き物おくぼ十一月より空中乃外に
伏きれ月うくもうく流るるものなり苗を仕ちる
所も又悪しゆる所も麻ぶ苗いちびに桑素すてを

日乃敵るあにうくぼをとるべし○又桑
をつと蚕よ刈んとするあつくぼ穴をうちく。
けとるべし苗の根くるかるど○三月二日時
わだ桑くさるゆるものなり山日あ苗ふれば桑
乃葉傷いるく物もるし○又桑べくさくく
く根ぶかり枝とかくと合くく搗とうもし桑へ
かめる物すぶ時中うちをあくくし苗さ根
のよとあぐてあるをべ切きべし○又留よ地桑を
ぶくゆる物ぶ一阪よ六七百料ゆる搗うと竈
代書にいるるぜぶ乃地の肥焼よべうるべぶかく

たゝこれ地ようくいかにおを作りくぞそろあく揚ぐ。
晒きてにかん合せうくうるいぞ業浮うくるよおとうず。
さうく紫も肥るなり○又菜苗を仕ちるよおこぐ
乃こねもわくけるといへども苗もの根をとれて根
抜およ苅くるい油らどとうくけるなり根をとり
とをて紫なよ入とくうぞそこのいきくるしなよおさ
めとくべくうぞこのれ抜れつきとれつきおそいたぎ
き損れ又嵐乃うく食をるなり。そこんなとすべ
○又松福の木を多くうくとをくぞ乃紫と蚕よ
紡へば菜と同ぐく糸を付ぞ糸い琴の糸よし

くぞそう音清く響をそぞつるの乃糸よういを揚れう。
されども糸ハすくるーぞを蚕に飼んとあうばあ
年紫と油らぞ切くうひきるべー。そこまく思ばぞの
乃紫も毒ありく蚕に思なり松福をようくとう
木にをるのも茶と大くく同るなりぞ二木乃糸
用材なり。油きはいへるの鞭にし枝よもうーぞよ
ぞ及べきくうそく綿ハけぞハ弓にも作るぞわ
かき頁をるをあ人ぐうもあるをたいめくぞ乃で
ぐく縄くくをうとをきぞねくたおとなりくるれ
鞭ようていどもなれおりぞされども平地まさ

るハようゝずゝ。ゝ中ゝ岩ゝ石ゝ多ゝ。ゝ性ゝ大ゝ。ゝ。ゝ。

特1
2296

もゝ一ぱい利多くなるを西くみゆ仕ぶあしく
三年ばかりまるゞぶ紙を培味を新へもしてあり
よひろく植と移くぶ多く成成と者しめ憂
たれ物と費せず一反おゝしとゝやゞ見場たくゆを
作すゝ紙を船と漕ぎるゆへを淺よ夫多ゝき
るゆかぶろるゝ。物くかるる新ひゝむを紙と深
ろゝゆゞと見ゆぶきりのをろ

農業全書目巻七

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『農業全書 11巻』 請求記号 特1-2296

ガラス使用